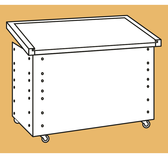
DEPT.

HOW TO USE DEPT COMPOST BIN



本体	レスキューされた古材
ふた	通常タイプ … ポリカーボネイト材 ONE OFF EDITION … レスキューされた古建具
キャスター	ストッパー付き

本体の塗装には植物タンニンエキスなど天然由来成分 100%で構成された自然塗料を使用しています。BLACK バージョンは塗料の特性上、色落ちしますので、開閉や移動の際はお洋服などに擦れて塗料がつかないようご注意ください。

キエーロとは、神奈川県葉山町発祥の土と風と太陽の力で生ごみを分解する生ごみ処理箱です。
DEPT COMPOST BIN は中に黒土を入れる箱型の構造で、お庭がなくても、マンションのベランダにも設置が可能で、堆肥が作られて用途に困ってしまうこともありません。
太陽熱、水、空気の力で土の中の微生物が活性化し、生ごみを水と二酸化炭素に分解します。
水と二酸化炭素は空気中に放出されるため土の増減がほぼなく、マニュアル通り使用すれば臭いや虫が発生しにくいのも大きなメリットです。
そして、最初に黒土を用意してしまえばその後ランニングコストはかかりません。

黒土
SMALL 53-61L
REGULAR 77-88L
必要量はキエーロ の 7–8 分目程度です。

スコップ ×1

ジョウロ or バケツ ×1

生ごみを溜める蓋付き容器 ×1

黒土について
ホームセンターで販売している黒土がおすすめ
(園芸用・プランター用の土でも可能。)
粘土質の土や腐葉土、砂、砂利ではゴミが分解できません。

蓋付き容器ついて
ステンレスや琺瑯の密閉できる蓋付きのものがお薦めです。

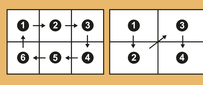
1

1 ごみをためる

生ごみは蓋付きの容器に 3-4 日分貯めてから
埋めるようにするとキエーロの場所をうまく使うことが
できます。貯めずに都度埋めてももちろん構いません。

ポイント
・臭など臭いが甚いものや固りやすいものは、貯めずに早く埋めたほうが
よいでしょう。
・生ごみの水気ははなるべくその日まで。
※水気とは一緒に捨ててください。
※水気とは一緒に捨ての商品。ラーメンやスープの残り汁、米のとぎ汁、お酒 etc
・埋める前に細かく刻んでおくと分解しやすくなります。
・米ぬかをかけると臭いを抑えられます。

2



2 埋める場所を決める

(キエーロのサイズ、ごみの量により)
4–6 ブロックに区切り目安に埋める場所を
ローテーションさせながら使用してください。
埋める場所に目印を立てておくとよいでしょう。
※目印＝使用済みの割り箸やアイスの棒などを再利用すると便利です

3

3 穴を掘る

深さ 20cm ほどの穴を掘り、掘った土を横によけます。
穴が浅いと生ごみの臭いがしたり、虫が寄ってくる
原因になります。

4

4 生ごみを埋める＆混ぜる

土と触れ合うことで生ごみの分解が進むので、
土と見分けがつかなくなるくらいまでよく混ぜてください。
(生ごみが乾いている場合は) 生ごみに土が付着する
よう、水分を補給するといいでしょう。
水の量は、かき混ぜた土を握った時に形が残るくらい
が最適です。
水分が少ないと微生物が働かず、多すぎると生ごみが
腐って臭いが発生してしまいます。
大きなごみはスコップで砕くようにして混ぜると分解
しやすくなります。

5

5 乾いた土をかぶせる

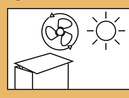
生ごみを完全に覆うように乾いた土をかぶせて
ください。
完全に覆わないと、臭いや虫が発生する原因に
なります。
埋める場所はローテーションさせてください。
使い始めは微生物が活性化していないため、
分解に時間がかかる場合があります。

設置する場所

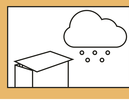
日当たりがよく、風の通る場所が最適。

太陽がとも温め、微生物を活性化させるとともに、土表面
が乾くことで水の発生を抑えます。
雨が直接当たるところは避けるのがベターです。

○



×



分解できる生ごみ

●分解しやすいもの

加熱調理をしたもの
水分が多くやわらかいもの
カロリーの高いもの
細かい (小さい) もの

ex:)
火を通した野菜や果物、お茶がら、コーヒーかす、
生肉、脂身、魚の内臓、使い終わった食用油、
米ぬか、残飯 etc

●分解に時間がかかるもの

固いもの
もともと土の中にあるもの
水分が少ないもの

ex:)
根菜類、とうもろこしやキャベツなど固い芯、
生の野菜 (葉や茎)、柑橘類の皮、スイカの皮、
昆布、魚のこまかい骨 (動物の骨は分解できない)、
カニの殻 etc

分解できない生ごみ

鶏、牛など動物の骨、貝殻、卵の殻、大量の生菓、大きくてかたい種（桃やかぼちゃなど）、タケノコの皮、
玉ねぎの外皮、枝豆のさや etc

＜分解にかかる時間のめやす＞
夏場は 5 日間、冬場は 2〜3 週間ほどかかります。
※設置場所や お住まいの地域によって異なります。

＜冬場／寒い時期の使い方のコツ＞
気温が低いと微生物の活動も鈍くなり、分解が遅くなります。
以下の方法を お試しください。

土をよく混ぜて空気を入れてあげる。
微生物は空気を好むので、分解中の桶をほぐしたり土全体をスコップで剪すようにして全体に空気が
入るようにして混ぜ、土をふかふかの状態に保つことが大切です。
このひと手間が終わった頃を見計らって、一度底のほうから掘りかえして混ぜましょう。
空気の入った土は作業も楽で、分解も早くなります。

●使い終わった廃食油で分解を促進
廃食油は微生物の働きを活発にし、分解を早めてくれます。
揚げ物で使用した油などは捨てずにキエーロに入れることで、分解も早まり、固めて捨てるなどの
手間も省けるので一石二鳥です。

●生の野菜はちいさく刻むか熱を通す
硬い時期は生の野菜の分解に特に時間がかかります。
細かく刻むか、もしくは調理時に使用した下茹での残り湯にしばらくつけたり、
使い終わったフライパンにかを足して、予熱を利用して軽く火を通すのも効果的です。

●継続的に使用することがたいせつです！
生ごみの分解中は土の温度が 10-20 度ほど高くなりますが、
埋めるのをやめるとその温度は下がってしまいます。
少量でも継続的にごごみを埋めて土中の温度を下げないことが頻回に分解を続けるポイントです。
分解途中の生ごみが残っていても継続的にゴミを入れて処理を続けましょう。

こんなトラブルには、

！虫が発生してしまった！
入れるごみが多すぎたり、ごみが土の表面に出ている場合は虫が卵を産みつけてしまう場合があります。
生ごみが固まらないように土とよく混ぜながら深く埋めて、表面には乾いた土を被せてください。
気になる場合は熱湯や殺虫剤をかけて駆除してください。キエーロ内の微生物のはたらきに影響はありません。

！臭いが気になる！
ごみが完全に土に覆われていないと臭いが発生する原因になります。
また、ごみの水分が多すぎると土に空気が行き渡らずに泥状になり、悪臭が発生する場合があります。
その場合は土全体をしっかりかき混ぜて、乾いてから再度ごみを埋めてください。